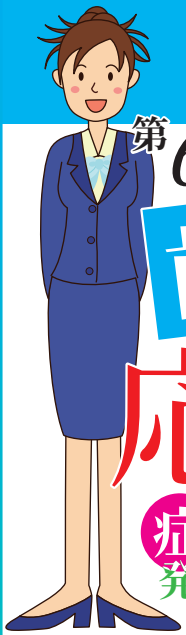


デンタルスタッフ・ミライ・プロジェクト ニュース

vol.24



第6回

頑張っている 歯科衛生士への 応援メッセージ

「治療がうまくいかない」「歯肉がどうやっても治らない」...
「なぜ?」「どうして?」を一緒に考えてみませんか?

10:00~15:00
オルガホール
岡山市北区奉還町

協会会員
会員限定
参加無料

症例
発表

10:05~ 逸見 麻希子 歯科衛生士 『付着を知るとペリオがわかる』
I DENTAL CLINIC

11:20~ 永田 祐里 歯科衛生士
さくらデンタルクリニック

『患者さんの希望を考慮し、
長期に安定した状態を維持できている症例』
~患者さんとの関わりから学ぶこと~

基調講演

「歯肉のみかた Dental Hygienists」

歯肉の味方になれる Dental Hygienists のための歯肉の診かた

橋本 貞充 先生 東京歯科大学生物医学研究室 教授



歯肉をみる時、Dental Hygienists達には一体何が
見えているのでしょうか。

肉眼で観察する歯肉は一見すると何も変化
をしていないように見えますが、ミクロの視
点では常に血液や組織液が循環して酸素や栄
養を供給し、細胞は活発に動きながら分裂と
分化を繰り返し、新しい細胞が生まれただけ
だけ役目を終えた細胞たちがその役割を若い
細胞たちに託して静かに消えていくのです。上
皮組織も結合組織も血管や骨組織さえも、全
ての組織が常につくり替えられることで、一

つの命をずっと維持しているのです。

歯周組織の細胞は歯の世界と口腔粘膜や
顎骨の世界をしっかりと繋ぎ止め、種々の
バリア機構を駆使して外界の細菌などの攻
撃をブロックし、内部環境の恒常性を維持
することで美しく健康な歯周組織を守って
います。その歯肉の生理的な機能を守り味
方になるのはDental Hygienists達。歯肉の
気持ちになって診ていかななくては...

そのためには歯周組織について、細胞の
大きさや立体的な組織の構造、生理的な機
能を理解すること。そして外部からの攻撃

に対して、様々な歯周組織の細胞達がどの
ように闘いを挑み、「炎症」という形で懸
命にからだを防衛し、戦場となり破壊され
た歯周組織をどのように再生・修復してい
くのかを理解する必要があります。

今回は歯周組織の立体的な構造とその防
御機構を知り、炎症という闘いの場で一体
何が起きているのか?そしてどのように
治療していくのかについて、臨床的なマ
クロの視点と組織・病理学的なミクロの視
点から一緒に考えていきます。

申込方法 | 岡山県保険医協会 [ホームページ申込みフォーム](http://okayama-hok.com) からお申し込み下さい <http://okayama-hok.com>

DH Pro.セミナー講師
山崎瑞穂先生による
コラムのコーナー

Mizuho Yamasaki

関節リウマチと歯周病

歯周病は成人の約7~8割が罹患している慢性疾患で、口腔内のみならず、
全身の様々な疾患に影響を与えていることが知られています。その中でも最
近特に歯周病と関節リウマチとの関係が注目されています。

関節リウマチと歯周病に関連があるという報告は、現在まで多くの研究結果
が出ています。歯周病を持つ関節痛患者は、歯周病を持たない患者と比較して
関節リウマチと診断される **リスクが約2.7倍高くなる**ことが分かっています。
まだまだこれから研究も進み、新たに解明されることが多いように思います。

関節リウマチ患者の80%はシトルリンを含むタンパク質に免疫反応を示す
とされています。また、歯周病菌の一種であるPG菌がシトルリン化を起こ
す酵素を産生する細菌であるという研究報告もあります。ですから、歯周病が
関節リウマチ発症に繋がっているのではないかと考えられるようになった
そうです。関節リウマチ患者は歯周病になっている確率が高く、重症化しやす
いことも分かっています。

関節リウマチだけに限らず、歯周病は様々な全身疾患との関与がありま
す。患者さんが抱えている病気があるならば、それらについて知っておく(問
診や医療面接)必要がありますし、歯科を通じて私たち歯科衛生士に何ができ
るのか?戦略を立てながら「しっかりみ(診・観・看・見)る」、「考える」こと
が求められているように思います。

関節リウマチとは

中年以降の女性での発症頻度が高く、関節の
腫れや痛みに始まり、進行すると全身に関節
の炎症をはじめ関節の変形・破壊へと向かう
進行性の自己免疫疾患

